

第3部 明日への讃歌

谷菜々美さん～置戸のこども役、キッズダンス、合唱



歌や踊りが大好きでお母さんに聞いて参加しました。子ども役、キッズダンス、合唱に参加して練習大変だったけれど、木島先生は楽しかったし、周りの人が話しかけてくれました。劇中の平村エレコークは学校の授業でも出てきて勉強になりました。これからも「そよかぜ」に入って合唱続けたいです。



キッズダンス



置戸音頭よさこいソーラン



合唱「おけと讃歌」・「ここがふるさと」



フィナーレ「まあるい日々」会場斉唱

木島理恵子さん～脚本、演出

7月から各地区を回り、演劇への不安を払拭してもらおうと、ワークショップで気持ちをほぐすための遊びから始め、コミュニケーションを大事にして、楽しく舞台に向かってもらうことを心がけました。



練習が本格化する中で、形に残らない芝居だけれども、地域の人達のつながりが強くなっていき、個性や良さがでて、笑いあり、涙ありで日に日に手ごたえを感じていきました。

皆さんには感謝しています。役者だけでなく、裏方の方も個性があり、いい芝居ができました。町民全員で作った芝居だと思います。今後つながりと団結力ができたらいいですし、参加した人達は自信を持ってくれたと思います。

佐久間光昭さん
～総監督



100周年でできるだけ多くの町民がキャスト、スタッフが参加でき、各地区での取り組みができると思い構成劇の構想を練りました。「100年のいのちのつながり」をテーマに先人に感謝し、今生きている人の横のつながりの大切さを描き、置戸のまちがどのようにつくられていったか、歴史を知ることによって置戸への思いを強くして、いろんな年齢、地域、職種、立場を超えてつながる大切さを表現したかった。そして、歴史を表現する流れの中で、青年たちが仕方なしに置戸に帰ってきたが、何かをしなくちゃと変わっていく姿を描きました。

今後、OGFや構成劇に携わった若い人が中心となって今回の経験を生かし、人とのつながりを大切に、自分たちで何かをしなくてはという気持ちをまちづくりや地域のために持ってくれればと思います。